press release
2025 9 27
KUNSTARZT-525

三木 梨々花 個展
MIKI Ririka solo exhibition

フカンゼンな魅惑
Imperfect enchantment

KUNST ARZT
www.kunstarzt.com

KUNST ARZT では、初となる
三木梨々花の個展を開催します。
三木梨々花は、子供の視点に寄り添い、
主に段ボールを素材に表現するアーティストです。
段ボールの軽さを活かし、切り抜いた
「子供」絵画を空中や壁面に配置した
大胆なインスタレーションや、
フルート（段ボール内部の波状の芯材）
を活かした、カラフルかつミニマルな
絵画を展開しています。
（KUNST ARZT 岡本光博）

経歴
2000 徳島県出身
2023 京都精華大学 芸術学部造形学科 洋画専攻 卒業
2025 京都精華大学大学院 前期修士課程芸術専攻芸術研究科 洋画領域 修了

個展
2024「がいなけんいける」STUDIO KAN/ 梅津
2023「学校がいやだ展」京都精華大学 7 号館 7-23 ギャラリー / 京都
2022「Dear mom」ドラフトギャラリー / 京都

主なグループ展
2025「SUMMER FACTORY A-LAB exhibition vol.48」A-Lab/ 尼崎市
2025「Hush Little Baby 子守絵展」アイギャラリー /大阪
2025「梅田小品展 2025」芝田町画廊 /大阪
2025「京都精華大学卒業・修了発表展 2025」ギャラリー Terra-S/ 京都
2025「かくれんぼの森」京都精華大学アートプロジェクト実行委員会 ギャラリー Terra-S / 京都
2024「プロジェクト企画演習 2023 成果展」グループ展 ギャラリー Terra-S/ 京都
2024「キテミテ中之島 2024」中之島駅改札内 /大阪
2023「新鋭アーティスト発信プロジェクト A-LAB Artist Gate'23」A-Lab/ 尼崎市
2023「芸術抄：Art Show! Ⅳ」芝田町画廊 /大阪
2023「京都精華大学卒業・修了発表展 2023」京都精華大学 7 号館 / 京都
2022「生命の花 Flower of life」ギャラリー Terra-S/ 京都

2025 年 11 月 18 日（火）から 23 日（日）
12:00 から 18:00

会　場：KUNST ARZT
605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ	KUNST ARZT 代表 岡本光博　090-9697-3786　kunstarzt@gmail.com

三木 梨々花 個展
MIKI Ririka solo exhibition

フカンゼンな魅惑
Imperfect enchantment

KUNST ARZT
www.kunstarzt.com

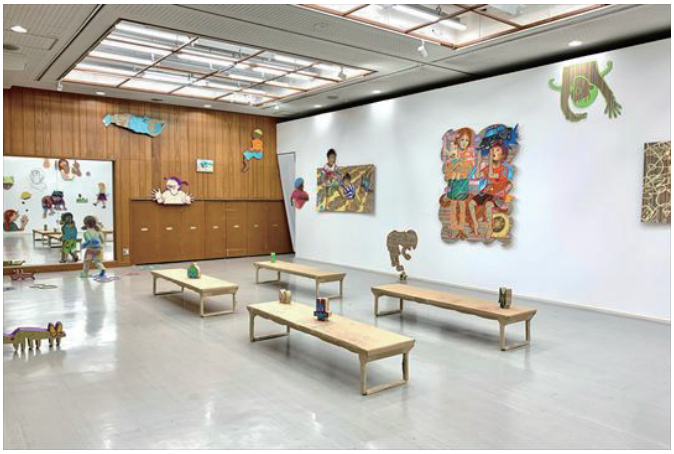
press release
2025 9 24
KUNSTARZT-525

アーティスト・ステートメント

子どもの純粋さと残酷さの矛盾を孕む要素に向き合い、その仕草を描くことで精神性や個性の表現を試みる。
素材は子どもがよく扱う物を用いる、あるいはコンセプトごとに変容するなど。
子どもの内面的問題を、親しみやすい雰囲気の作品に潜在させる手法で多様な解釈や感じ方を可能とさせる。
本展では、作家が身近に接した子ども達の不器用な様や不可思議な仕草を、
独自の視点で表現したダンボールの平面・立体作品とパステル画を展示する。

「Children's Transformation」
2024年
ダンボール、オイルパステル、錘、ビニールテープ
本展では、子ども自身の回りに居る苦手な子への先入観を取り払うことにより人間関係の悩みやトラブルを防ぐことを主題としている。人の捉え方や環境を変容させる意図で、立体作品の配置を毎日移動する展示方法を試みた。美術の世界ではモノの見方が大切だと教わるが、人間関係でも活用すればより良い生活に近づく と感じる。
　その様な普遍的なルールやカタチにある強い法則は個人や社会に対し画一性や硬直性を生み、人々を盲目にさせうるリスクをんでいると感じる。このような法則が持つ罠を露わにする制作を目で見る、鑑賞体験をするという視覚的アプローチの下で行っている。

「あれもこれもいるー!!」
2025年
ダンボール・オイルパステル・油彩・木材
作品タイトルの「いる」は物欲の意味や子どもの様々な恐ろしい姿などを示しています。子どもはお店で見つけた商品、お友達の持ち物、使い道のないゴミすらも興味を惹かれやすく次々と手に入れようとします。このような物欲は人間関係のトラブルを起こす悪と見なされますが、芸術活動において貪欲さは利点となり、数々のワークショップにおいて子どもたちは遊びの展開を繰りげました。その時の情景やお話の内容を基に、子ども達が遊んだ残骸を用いて再構成したオブジェの立体作品と、実際に目の当たりにした子ども達の愚行や不気味な様子を誇張して描いた平面作品の相対的な関係性をインスタレーションで表現しました。
純粋な子ども達の内面に潜む恐ろしい本性（=野生）こそが真の子どもらしさだと感じています。



「彷徨いボーダーライン 」
2025年
ダンボール、オイルパステル、木材 可変
素直で可愛らしいお手本のようないい子にはなれず、いつもトラブルを起こしてしまう僕たち私たち。ありのままでは誰も受け入れてくれず、いい子とみなされるか否かのボーダーラインを彷徨い続けている。最強の敵は常に自分自身の中にある悪の心で、気の向くままに生きてしまうのだ。
本展覧会では、前述したような毒々しく野生的な子ども達の様子を独自の観点で捉え、作家自身の体験を元に肯定的に表現した作品群である。手に負えない子ども達の動作に奔放なインスタレーション展示を施す。

「Angels」
2024年
ダンボール、鉛筆、油性マーカー、アクリル